

WIAS Discussion Paper No.2014-001

得意科目とその後の労働時間・賃金への影響  
**The Effects of the Subjects Good at in School on Working Hours and Wages**

May 21, 2014

参鍋 篤司（早稲田大学高等研究所）

Atsushi SANNABE  
*Waseda Institute for Advanced Study,  
Waseda University, Tokyo, Japan*



1-6-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan  
Tel: 03-5286-2460 ; Fax: 03-5286-2470

## 得意科目とその後の労働時間・賃金への影響

早稲田大学高等研究所 参鍋 篤司<sup>1</sup>

### 要旨

15 歳時点での得意科目が及ぼすその後の労働時間、賃金への影響を、男女別に推計した。得意科目のベースを国語とした場合、女性は体育が得意であるとした人の労働時間は長く、また賃金も高くなる傾向がみられた。そして英語、社会が得意であることも女性の賃金を高めていることが観察された。一方、男性では、得意科目による労働時間への影響は見られず、英語、数学、理科、社会の順で、それらが得意である人の賃金は高くなっていた。

キーワード 女性労働問題、労働問題一般、労働条件一般

---

<sup>1</sup> Corresponding author : Tel.:+81-3-5286-8416      E-mail: sannabe@aoni.waseda.jp

## 目次

- I はじめに
- II データ
- III 得意科目と労働時間
- IV 得意科目と賃金
- V 結果についての議論とまとめ

### I はじめに

近年の日本では、中長期的に見た労働供給力の減少を踏まえ、女性労働力の活用がさらに求められる状況となっている。しかしその一方で、女性の労働市場における進出はいまだ進んではいない（川口(2008)）。本稿では、こうした事象の背景にあるものとして、体力にかなり自信のある一部の女性しか、男性と同等に現在の日本の労働環境に適応して働くことができない状況を示すものとして、15歳時点での得意科目と、その後の労働時間、賃金への影響を検証する。

具体的には、アンケート調査により、英語、数学、国語、理科、社会、体育、芸術、その他の中から、15歳時点で最も得意であった科目を選んでもらい、それが体育であったとした女性、即ち体育に比較優位のある女性が、その後の労働時間が長く、賃金も高くなるという傾向を見出した。また、体育が得意であった女性は結婚していても労働時間が長くなる傾向が観察された。

現在の日本の労働市場においては、正規社員として働くためには長時間にわたる労働供給が必要となるために（小倉(2011)）、こうした現象が観察されるのではないかと推量される。男女間格差の解消を実現していくためには、女性の働く水準を男性と同等に引き上げていくという発想ではなく、男性を含め、現在の長時間労働が求められる労働環境を根本的に変化させていく必要が示唆される。また本稿の結果からは、数学や理科といった、いわゆる理系科目に比較優位のある女性の能力が、男性と比較して活用されていない状況のあることが示唆される。従って、理系に比較優位のある女性の活用を図る一層の施策もまた必要であろう。

本稿の構成は、以下である。II データでは、本稿で用いるデータについて説明し、記述統計を紹介する。次に、III 得意科目と労働時間では、男女別に15歳時点での得意科目とその後の労働時間への影響について回帰分析を行い、その影響を観察する。IV 得意科目と賃金では、労働時間を中間変数として、得意科目とその後の賃金への影響について回帰分析を行い、その影響を見る。V 結果についての議論とまとめでは、本稿での結果についてまとめる。

## II データ

本稿で使用するデータは、「地域間格差生成の要因分析と格差縮小政策」（科学研究費補助金 基盤研究（A） 研究課題番号 19203012 研究代表者 橘木俊詔）の研究資金により実施されたアンケート調査「ライフプランニングと幸福感に関するアンケート」の結果を用いている。配布は2009年9月に、無作為抽出によるwebアンケートで39000名に実施（（株）NTT レゾナント リサーチ部門（goo リサーチ）により実施）され、有効回答として6757件を得ている。なお、本稿では、約一名であった十代のサンプルを除き、6756のサンプルを用いている。

本項で用いるデータについての記述統計表は、表1に示されている。

### <表1 記述統計表>

BMI 関連指標については、労働時間への影響を見る推計において、詳述する。

ここで、得意科目の分布については、表1において男女合わせた全体の分布が示されているものを、男女別に示したのが図1である。得意科目は、「15歳の時、最も得意な（好きな）科目はなんでしたか」という問いに対して、英語、数学、国語、理科、社会、体育、芸術、その他の中から一つを選び、回答してもらったものを用いている。

### <図1>

女性は、最も得意な科目を国語とした人が最も多く、次に英語、数学となっている。一方、男性は、数学とした人が最も多いことが特徴であろう。そして社会、理科へと続く。

女性で数学、理科を得意とする人の割合は少ないために、こうした分野へ進む人の割合は少なくなるためにマイノリティとなり、女性の活用が理系の分野で遅れがちになる可能性がうかがえる。以下では、これら得意科目の、その後の労働への影響について検討する。

## III 得意科目と労働時間

### 1 体育が得意な女性は労働時間が長い

本項では、得意科目がその後の労働供給へ及ぼす影響、特に労働時間へ及ぼす影響について検討する。そして特に、体育と答えた女性に着目した分析を行う。以下では、体育が得意であったと回答した女性は、生得的に体力的に優れていることを示すものとして解釈している。

被説明変数を労働時間（一週間の平均労働時間）とし、説明変数として得意科目（ペー

ス：国語)、年齢、勤続年数、産業、就業形態、企業規模、結婚ダミー、子供の数を用いている。その結果を示したのが、表 2 である<sup>1</sup>。

<表 2>

表 2 の列 (1) では、サンプルを男性に限った、OLS 推計の結果が示されている。得意科目は、有意な影響を与えていない。一方で、サンプルを女性に限った OLS 推計の結果は列 (2) である。英語と体育が有意に正の影響を及ぼしており、労働時間を長くさせることがわかる。しかし、ここで考えなければならないのは、第一に、女性の労働供給についてのサンプルセレクションバイアスであろう。第一段階におけるセレクション変数として、ローン残高のあるなし、配偶者または交際相手の年収、その他の変数を用いて逆ミルズ比を計算し、ヘックマンの two-step 推計を行った<sup>2</sup>。その二段階目の結果が列 (3) である<sup>3</sup>。その結果としては、英語の有意性は消えたが、体育は依然統計的に有意なままである。一段階目の推計（被説明変数が労働供給をするか否かについて）は、列 (4) に示されている。英語、数学、社会、体育が有意となっている。

列 (3)、(4) では、(1)、(2) にない説明変数を加えている。これらは、体育が得意であることが、体力のあることを示しているという解釈をするうえで、考慮しなければならないことと関連している。

第一に、BMI に関連する指標である。体育が得意であった女性は、その後の運動をする機会も多くあった可能性があり、その結果として体形を維持することが可能となろう。容姿に優れた人は収入が多くなる (Hamermesh and Biddle(1994)) という結果が報告されており、こうした要因をコントロールする。また、痩せすぎ、太りすぎの人は体力に問題のある場合があり (徳田(2000))、こうした要因を考慮した上で、体育が得意であること（≡体力があること）の効果を見るためである。BMI が 18.5 未満の人は痩せすぎとなり、18.5 以上、25 未満の人はふつう体重、25 以上 30 未満は肥満度 1、30 以上 35 未満は肥満度 2、35 以上 40 未満は肥満度 3、40 以上の場合は肥満度 4 に分類される。ふつう体重をベースとして、これらをダミー変数として説明変数に加えている。

しかし結果としてこれらは有意な影響を及ぼしてはおらず、体育の係数は依然有意であった。

第二に、大学の学科についての説明変数を加えている。15 歳時点での得意科目が、その後の大学での専攻へ影響を及ぼし、そうした影響が労働時間への影響となって表れている可能性があり、この場合、体育の影響は体力の影響とは見なされなくなるからである。

ベースは非大卒者とし、大学の卒業学科についての情報を説明変数として加えたが、依然、体育は有意な影響を及ぼしており、やはり体力の影響があると考えられる。

また、体育が得意であったことが正の影響を及ぼす理由として、体育が得意であった人はその後の体育会の活動に参加しており、そのことを通じて企業での就業にプラスの影響

を与えているという解釈もできる<sup>4</sup>。本稿で用いたデータからは体育会での活動についての情報は得られないが、もしそうした解釈が女性について成りたったとしても、男性では体育が有意でないことと整合的でなく、やはり体力のあることを示すものとして解釈することが自然であろう。

## 2 体育が得意な女性とそれ以外の女性との比較—Blinder-Oaxaca 分解と DFL 推計

体育が得意な女性とそうでない女性との間で、労働時間に有意な差が生じることを確認したが、それはどのように生じているのだろうか。女性のサンプルを、体育が得意とした群と、それ以外の群とに分け、Blinder-Oaxaca 分解(Blinder(1973),Oaxaca(1973))を通じて、その差がどこから生じているのか検討した。説明変数は、表 2 の列(3)で用いられたものである<sup>5</sup>。体育が得意であった群における回帰分析の係数値を基準として、**explained** (説明変数の数値により説明される差)と **unexplained** (説明変数の係数値により説明される差)に分解した結果、**explained** は 0.985 時間、**unexplained** は 3.847 時間となった。

紙幅の都合により詳細な結果の報告は省くが、体育が得意な群では、結婚ダミーの係数値は有意に正であり、そうでない群では、その係数値は非有意で小さい。そして、労働時間の差を生み出す説明変数の中で、最も影響の大きいのは結婚ダミー変数の「係数値の差」により説明される部分であり、22.53 時間となっている。つまり、体育が得意な群では、結婚している人は労働時間を大きく増やしている。

女性は伝統的に家事等の負担が重く、仕事との両立が難しいことが指摘されるが、得意な群では、そうした家庭と仕事のトレード・オフからは自由であることがうかがえる。

ここで、得意な群とそれ以外の群について、DiNardo, Fortin and Lemieux(1996)による仮想的な推計を行ったのが、図 2 である。

ここでは、体育以外の科目が得意であると答えた人が、もし体育が得意と答えていたならば—もし比較優位が体育にあったとするならば—その労働時間の分布はどのようになるのか、ということについて仮想的な推計を行っている。

### <図 2>

図 2 では、体育が得意と答えていない群の最初の分布は、0 付近と 40 時間の二つに大きな山がある分布である。そして仮想的な推計の結果では、0 付近の人々が減り、30-40 時間のあたりに大きな山が現れ、労働供給をする人がかなり多くなる様子がうかがえる。

#### IV 得意科目と賃金

前項では体育が得意であったことが労働時間へ影響を及ぼすことを見た。本項では、そうした影響を間接的影響として、得意科目が及ぼす賃金水準へ影響について検討する。得意科目とその後の賃金の関係を示す先行研究として、Hirata et al.(2006)では、男女を合わせたサンプルにおいて、英語、数学が得意であると所得が高くなることが指摘されている。また、原その他(2002)では、英語が得意であると賃金が高くなることが報告されている。

そこで、本稿でのデータを用いて、得意科目の賃金への影響について回帰分析を行ったのが、表3である<sup>6</sup>。

男性については、英語、数学、理科、社会の順に賃金が高くなっている。女性では、サンプルセレクションバイアスを考慮しない場合、体育のみが有意に正である（列（2））。考慮した場合（列（3））<sup>7</sup>、社会、体育、英語の順となる。ただし、体育は表2で見たように、労働時間へ正の影響を及ぼしているので、そうした間接的な効果も考慮すれば、社会よりも賃金への影響は依然大きい。

#### V 結果についての議論とまとめ

日本経済の今後の成長を考えても、あるいは日本に生まれた女性の、人生の意義の向上のためにも、女性労働力の活用を進めていく必要があることは論を待たぬところであろう。

そこで今後、活躍する女性を増やそうとする場合、現在活躍する女性はどうの人であるのか、という分析は一定の意味を持つ。なぜならば、現在活躍している女性の特徴を調べていくことにより、人事管理でいうコンピテンシーを把握することができ、そうした女性を多く生むような諸制度の整備や教育といった対策をとることができるからである。

しかし、本稿で示す観察事実からは、そうした施策が望ましいものであるという推論は成り立たないだろう。現在活躍している女性は体力的に優れた人たちである可能性があるからである。体力のあるなしは生得的な部分も大きいので、こうした体力面が見えない天井となっている可能性がある以上、男性を含めたすべての人の働き方の変更が必要であることを示唆するものと思われる。言い換えれば、女性が働きやすい人事制度を基本として、労働政策や企業の自主的な努力を通じて、現在の仕組みを根本から変えていく必要があるだろう。

そうした施策が特に必要なのは、理数系の科目に比較優位のある人が働くであろう職場だろう。理数系において比較優位のある女性は、男性の様にそのメリットを享受できていない。記述統計でみたように女性において理数を得意とする人はマイノリティなので、企業等の社会では、女性が働きやすい状況を作り出すことに対応するインセンティブに欠けている可能性があることも指摘できるだろう。

<sup>1</sup> 産業ダミー、企業規模、就業形態についての結果は省略した。企業規模は大きくなるほど就業時間は長くなり、就業形態は正社員・経営者が長く、非正規の形態では短くなっている。

<sup>2</sup> 本来ならば完全情報最尤法を用いて推定することで、小標本において効率性の高い推定が得られるが (Wooldridge(2002))、推計が収束しなかったために、二段階推計を行っている。また、女性の労働供給の決定要因については、大森 (2008)、橘木・迫田 (2013) に詳しい。

<sup>3</sup> 列 (3)、(4) でサンプル数が減少しているのは、セレクション変数として用いた、ローン残高有、配偶者または交際相手の年間賃金が観察されない変数がオミットされた結果である。

<sup>4</sup> 体育会に所属していたことの賃金・昇進等への影響については、松繁(2004)、松繁(2005) に詳しい。

<sup>5</sup> 従って、Blinder-oaxaca 分解における説明変数には、逆ミルズ比が含まれている。

<sup>6</sup> 被説明変数には賃金 (単位: 万円) を用いている。賃金に log をとったものを用いた結果も、基本的に変わりはない。また、産業ダミー、企業規模、就業形態についての結果は省略した。企業規模は大きくなるほど賃金は高くなり、就業形態は正社員・経営者で賃金は高く、非正規の形態では低くなっている。

<sup>7</sup> ここでもヘックマンの 2 段階推定を行っており、1 段階目の推計は表 2 におけるものと同一である。

## 参考文献

- Blinder, Alan S. (1973) "Wage Discrimination: Reduced Form and Structural Estimates," *Journal of Human Resources* 8 (4), 436-455.
- DiNardo, John, Fortin, Nicole and Lemieux, Thomas(1996) "Labor Market Institutions and the Distribution of Wages, 1973-1992: A Semiparametric Approach," *Econometrica*, vol. 64(5), 1001-44.
- Hamermesh, Daniel S. and Biddle, Jeff E. (1994) "Beauty and the labor market," *American Economic Review*, vol 84, 1174-1194.
- Hirata, Junichi, Nishimura, Kazuo Urasaka, Junko and Yagi, Tadashi(2006) "Parents' Educational Background, Subjects' Good-At' in School and Income: An Empirical Study," *Japanese Economic Review*, Vol. 57, No. 4, 533-546.
- Oaxaca, Ronald L(1973) "Male-Female Wage Differentials in Urban Labor Markets," *International Economic Review* 14 (3), 693-709.
- Wooldridge, Jeffery M. (2002) "Econometric Analysis of Cross Section and Panel Data," MIT Press.

大森義明 (2008)『労働経済学』日本評論社

小倉一哉(2011)『過働社会ニッポン』日本経済新聞社

川口章 (2008)『ジェンダー経済格差』勁草書房

橘木俊詔・迫田さやか (2013)『夫婦格差社会』中央公論新社

徳田潤子(2000)「女子学生における肥満度と体力の関係について」桜花学園大学研究紀要 2, 67-75.

原琴乃、松繁寿和、梅崎修「学歴エリート女性のキャリアにおける学力・英語力及び適性



の役割」 OSIPP Discussion Paper, J-013.

松繁寿和(2004)「英語力と昇進・所得—イングリッシュ・デバイドは生じているか」 松繁寿和編『大学教育効果の実証分析』第2章、29-48, 日本評論社

松繁寿和(2005)「体育会系の能力」 日本労働研究雑誌、No.537, 49-51.

表1 記述統計表					
Variable	Obs	Mean	Std. Dev.	Min	Max
<b>15歳時得意科目</b>					
英語	6756	0.14	0.34	0	1
数学	6756	0.26	0.44	0	1
国語	6756	0.16	0.37	0	1
理科	6756	0.11	0.32	0	1
社会	6756	0.16	0.37	0	1
体育	6756	0.06	0.25	0	1
芸術	6756	0.06	0.24	0	1
その他	6756	0.03	0.18	0	1
<b>BMI関連</b>					
BMI	6756	22.44	3.54	14.17	60.94
低体重	6756	0.10	0.31	0	1
肥満度(1)	6756	0.16	0.37	0	1
肥満度(2)	6756	0.03	0.17	0	1
肥満度(3)	6756	0.01	0.07	0	1
肥満度(4)	6756	0.00	0.02	0	1
<b>大学卒業学科</b>					
文・教育・社会・心理	6756	0.11	0.32	0	1
法経商政策	6756	0.17	0.37	0	1
芸術	6756	0.01	0.11	0	1
理工	6756	0.15	0.36	0	1
医	6756	0.01	0.08	0	1
薬歯	6756	0.01	0.10	0	1
福祉・看護	6756	0.01	0.08	0	1
農林水産	6756	0.02	0.13	0	1
情報	6756	0.01	0.12	0	1
国際・外国語	6756	0.02	0.12	0	1
スポーツ	6756	0.00	0.05	0	1
その他	6756	0.02	0.14	0	1
<b>現在働いている産業</b>					
建設業	4107	0.06	0.24	0	1
製造業	4107	0.15	0.35	0	1
電気・ガス・熱供給・水道業	4107	0.01	0.10	0	1
情報通信業	4107	0.06	0.24	0	1
運輸業	4107	0.03	0.18	0	1
卸売・小売業	4107	0.12	0.32	0	1
金融・保険業	4107	0.04	0.21	0	1
不動産業	4107	0.02	0.15	0	1
飲食店・宿泊業	4107	0.02	0.15	0	1
医療、福祉	4107	0.09	0.29	0	1
教育、学習支援業	4107	0.06	0.23	0	1
その他のサービス業	4107	0.20	0.40	0	1
公務	4107	0.03	0.18	0	1
その他	4107	0.09	0.29	0	1
<b>現在働いている企業規模</b>					
30人未満	4107	0.41	0.49	0	1
30～99人	4107	0.17	0.38	0	1
100～299人	4107	0.14	0.35	0	1
300～999人	4107	0.11	0.31	0	1
1,000人以上	4107	0.17	0.37	0	1
<b>現在の就業形態</b>					
経営者	4107	0.05	0.21	0	1
正規雇用の被雇用者(正社員・正職員)	4107	0.51	0.50	0	1
契約社員、嘱託社員	4107	0.08	0.27	0	1
派遣社員	4107	0.06	0.24	0	1
パート、アルバイト(フリーターを含む)、臨時雇用	4107	0.18	0.39	0	1
自営業主	4107	0.09	0.28	0	1
家業の手伝い	4107	0.01	0.11	0	1
内職、在宅ワーク	4107	0.01	0.08	0	1
その他	4107	0.01	0.12	0	1
<b>その他家庭環境等</b>					
年間賃金(万円)	6289	442.03	302.57	100.00	1700.00
平均週労働時間	6756	33.48	19.21	0.00	62.50
年齢	6756	42.81	10.41	20.00	88.00
勤続年数	5987	10.43	9.63	0.00	55.50
子供の数	6756	1.00	1.08	0	6
結婚	6756	0.63	0.48	0	1
女性	6756	0.41	0.49	0	1
配偶者または交際者の年間賃金	3554	385.83	293.74	100	1700
住宅ローン残高有	6756	0.35	0.48	0	1

図1 男女別得意科目の分布

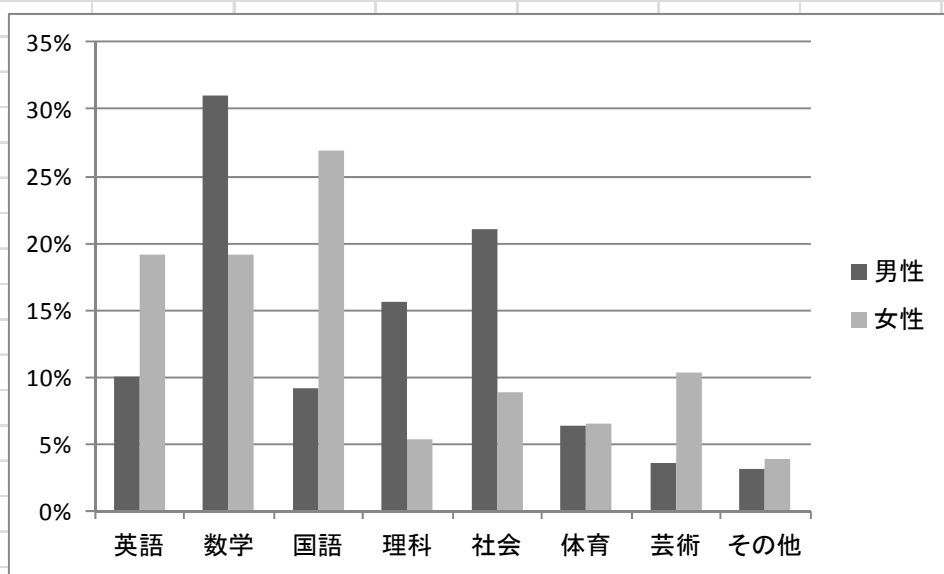
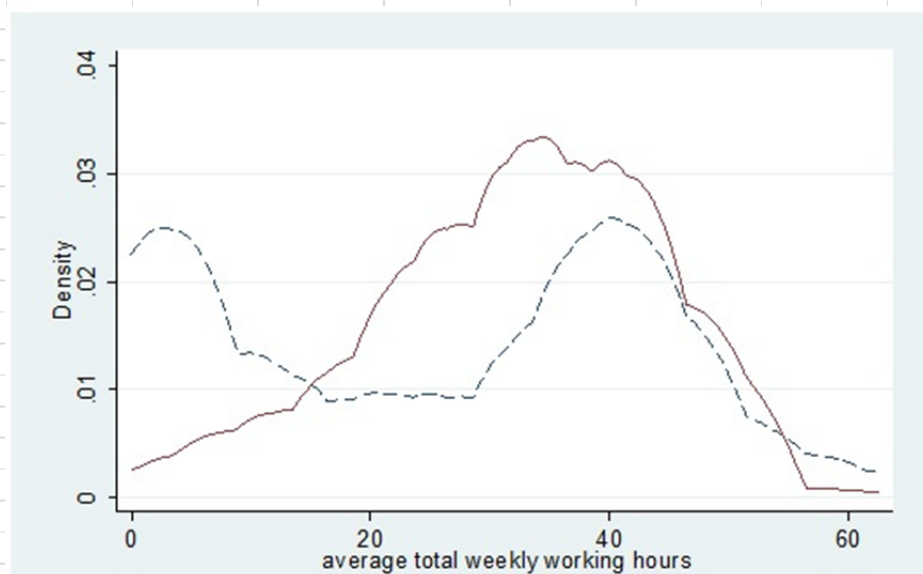


表2 得意科目の労働時間への影響				
	(1)	(2)	(3)	(4)
	労働時間 OLS 男性	労働時間 OLS 女性	労働時間 Heckman 女性	労働供給 Probit 女性
<得意科目: ベースは国語>				
英語	1.457 (1.388)	<b>2.320**</b> (0.953)	2.377 (1.577)	<b>0.313***</b> (0.115)
数学	1.735 (1.123)	0.694 (0.977)	0.679 (1.507)	<b>0.216*</b> (0.114)
理科	1.600 (1.233)	2.060 (1.619)	1.251 (2.469)	0.255 (0.199)
社会	0.661 (1.161)	0.561 (1.123)	-1.471 (2.130)	<b>0.469***</b> (0.159)
体育	-0.832 (1.655)	<b>2.813*</b> (1.439)	<b>5.921***</b> (2.142)	<b>0.330**</b> (0.168)
芸術	-1.377 (1.939)	0.435 (1.209)	1.811 (1.838)	0.117 (0.143)
その他	-1.078 (2.180)	1.456 (1.881)	1.074 (2.858)	-0.0190 (0.215)
痩せすぎ<ベース: ふつう体重>				
			-0.0287 (1.319)	-0.0792 (0.102)
肥満度1			-0.865 (1.867)	0.00540 (0.155)
肥満度2			3.914 (3.725)	-0.0743 (0.305)
肥満度3			-14.51 (13.88)	-1.190 (0.728)
肥満度4			0.614 (14.50)	5.451 (0)
<大学学科: ベースは非大卒者>				
文・教育・社会・心理			2.778* (1.551)	-0.176 (0.110)
法経商政策			-2.240 (2.454)	-0.0397 (0.191)
芸術			0.854 (3.913)	0.361 (0.340)
理工			0.673 (2.923)	0.202 (0.250)
医			-29.26*** (10.52)	6.388 (0)
薬歯			-10.90** (4.853)	0.747 (0.544)
福祉・看護			-8.293* (4.769)	0.323 (0.449)
農林水産			18.52* (9.553)	-0.523 (0.638)
情報			6.371 (7.909)	-0.475 (0.488)
国際・外国語			-1.464 (2.994)	0.105 (0.255)
スポーツ			-9.014 (14.33)	5.182 (0)
その他			2.019 (3.545)	-0.0500 (0.269)
子供の数	0.294 (0.411)	-0.603 (0.406)	0.0396 (0.523)	-0.0627 (0.0403)
大卒	1.142* (0.674)	0.0680 (0.714)		
結婚	0.0774 (0.881)	-3.177*** (0.804)		
住宅ローン残高有				0.222*** (0.0790)
配偶者または交際相手の年間賃金				-0.0007*** (0.000149)
年齢	-0.200*** (0.0420)	-0.00229 (0.0492)	-0.198*** (0.0757)	0.0163*** (0.00532)
勤続年数	0.0719 (0.0458)	0.132* (0.0749)	0.286*** (0.0917)	
逆ミルズ比			-8.671* (4.870)	
定数	47.26*** (2.356)	35.66*** (2.435)	45.64*** (4.935)	0.0454 (0.225)
産業・就業形態・企業規模 included?	yes	yes	yes	yes
サンプル数	2,336	1,771	1,229	1,229
R-squared	0.078	0.262		
Robust standard errors in parentheses				
*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1				

図2 DFL推計



破線: 体育が得意と答えていない群 実線: 仮想的な分布

表3 得意科目の賃金への影響			
	(1) 男性 OLS	(2) 女性 OLS	(3) 女性 Heckman
週当たり平均労働時間	1.637*** (0.323)	1.559*** (0.292)	1.508*** (0.511)
<得意科目:ベースは国語>			
英語	76.05*** (23.61)	10.20 (9.602)	62.15** (27.64)
数学	36.02** (17.20)	-0.809 (9.791)	31.54 (26.34)
理科	32.55* (18.20)	-8.094 (11.56)	36.10 (43.33)
社会	29.17* (17.18)	5.506 (11.53)	83.25*** (37.56)
体育	9.541 (21.47)	32.95** (15.39)	81.60** (37.88)
芸術	-30.67 (23.80)	3.009 (11.58)	29.64 (31.95)
その他	12.19 (25.69)	-11.01 (15.31)	1.141 (49.20)
痩せすぎ<ベース:ふつう体重>			
	-27.53 (23.66)	1.141 (8.385)	-23.50 (22.93)
肥満度1	5.295 (11.30)	-7.026 (12.17)	-23.74 (32.85)
肥満度2	9.462 (23.17)	12.30 (45.66)	76.46 (65.38)
肥満度3	-67.72* (36.49)	-90.62** (45.82)	-361.5* (213.7)
肥満度4		-130.7** (60.02)	112.2 (271.6)
<大学学科:ベースは非大卒者>			
文・教育・社会・心理	54.85*** (18.43)	36.49*** (10.49)	-4.805 (26.94)
法経商政策	76.63*** (13.70)	42.02** (16.88)	-14.92 (42.65)
芸術	127.0** (53.54)	23.46 (31.10)	103.1 (69.36)
理工	70.75*** (14.69)	-2.185 (20.02)	8.495 (51.78)
医	866.4*** (65.21)	443.8* (255.4)	290.6 (196.2)
薬歯	293.9*** (63.11)	94.84*** (28.90)	86.82 (89.01)
福祉・看護	18.19 (40.36)	30.93 (30.60)	43.88 (85.94)
農林水産	14.25 (31.64)	-17.31 (35.31)	-83.68 (159.5)
情報	113.1** (46.43)	115.9** (56.99)	-82.33 (129.0)
国際・外国語	119.7 (74.34)	67.30** (33.74)	116.1** (52.98)
スポーツ	59.07 (47.40)	34.44 (39.98)	79.35 (268.8)
その他	18.86 (34.09)	61.83*** (23.89)	33.94 (61.27)
子供の数	12.90** (6.137)	-8.202* (4.836)	-16.22* (9.123)
結婚	81.43*** (12.58)	-26.00*** (9.435)	
年齢	3.858*** (0.634)	1.019* (0.559)	1.329 (1.291)
勤続年数	2.582*** (0.793)	2.880*** (0.816)	2.748** (1.399)
逆ミルズ比			263.2*** (84.41)
定数	39.49 (35.60)	164.3*** (26.97)	11.41 (87.39)
産業・就業形態・企業規模 included?	yes	yes	yes
Observations	2,332	1,755	1,229
R-squared	0.407	0.405	
Robust standard errors in parentheses			
*** p<0.01, ** p<0.05, * p<0.1			